

報 医 人 世 今



目次

- 巻頭言「ゼロコロナ・ウィズコロナ・ポストコロナ」
気仙医師会副会長 岩手県立大船渡病院
院長 瀧 向 透…………… 2
- 理事会報告
 - 令和4年度第5回理事会報告…………… 3
 - 令和4年度第6回理事会報告…………… 9
- 随 想
 - 「今日・この頃」
医療法人おいかわ 及川皮膚科クリニック
院長 及 川 東 士……………11
 - 「手 刀」
大船渡市国民健康保険越喜来診療所
所長 渡 邊 周 永……………12
- 研修医日記
岩手県立大船渡病院 二年度研修医 鎌 田 大 地…13
- 気仙学術講演会（令和4年度糖尿病性腎症疾病管理強化対策事業）
「糖尿病・CKD重症化予防の進歩と課題」
岩手医科大学医学部内科学講座腎・高血圧内科分野教授
岩手医科大学附属病院腎センター長 旭 浩 ……14
- 令和4年度糖尿病腎症重症化予防対策連絡会……………15
- 産業医実地研修会……………16
- 会員の退会・異動のお知らせ……………18
- 事務局日記……………19
- 編集後記……………20
- 表紙のことば……………20



第163号
2023. 4. 25

気仙医師会
岩手県大船渡市盛町字内ノ目6-1
TEL:0192-27-7727 FAX:0192-26-2429
<http://kesen-med.or.jp/>

巻頭言



ゼロコロナ・ウイズコロナ・ポストコロナ

気仙医師会 副会長
岩手県立大船渡病院 院長

透 向 洩

新型コロナウイルス感染症の流行が始まって3年が過ぎました。100年に1度とされる新興感染症のアウトブレイクを実体験していることは、ある意味で貴重な経験ですが、ゼロコロナを目指して感染対策を取る我々医療人にとっては、厳しい状況が続いています。気仙地域でも、流行の波が来るたびに地域の緊張が高まり、特に第5波とされる令和3年8月のデルタ株の流行、第8波の令和4年12月からのオミクロン株の流行の際には、大船渡病院の収容可能人数を上回る患者の発生があり、その都度、高田病院にコロナ患者を受入れてもらうことで、何とか凌いできました（高田病院の皆様には、心から感謝いたします）。その他にも第8波では、その感染力の強さのため、大船渡病院の複数の病棟で院内感染が起これ、救急医療を停止せざるを得ないかどうか、というギリギリところまで追い詰められられましたが、何とか危機的状況は切り抜けることができました。

今年5月から、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、季節性インフルエンザと同じ5類に移行されることになっています。現在新型コロナウイルス感染症は2類相当とされていますが、本来の2類感染症とは、感染力及び罹患した場合の重篤性が高いものであり、結核、SARS、鳥インフルエンザ等が分類されています。一方で5類感染症は、感染力及び重篤性は1-3類程ではないが、国が感染症発生動向調査を行い、必要な情報を国民に提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症とされています。今後医療機関は季節性インフルエンザと同様の扱いで対応することが求められていますが、この感染症が社会で許容されるまで、まだしばらくの間、混乱が続くそうです。

随 想

「今日・この頃」

医療法人おいかわ 及川皮膚科クリニック
院長 及川 東 士

暖かい春に向けて、体調に変化が起こりやすい日々。暖房をつけているけれど、換気も必要とし、エアコンはフル稼働です。長引くコロナ禍の影響により、感染対策を講じるための経費負担の増大が続く中で、更に物価高騰により、備品・光熱費の支出も多くなりました。ガーゼなど別途保険請求が出来ない医療材料も値上げになり、病院負担は増える一方です。また、患者さんは、物価上昇で生活必需品や日用品にかかる支出が増大すれば、医療や介護にかかる支出を抑えるという思考も生じてくると思います。栄養面の低下、身体機能の衰えなど、物価上昇という厳しい環境変化は、高齢者・現代世代も含めた、国民全体の問題となっております。

2025年には、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上となり、超高齢化社会に突入します。超高齢化が進んだ社会では、医療や介護、社会保障など、様々な面に深刻な影響が及ぶと考えられています。大船渡市の人口も減少してきています。そして、各業種も低迷し、寒い風が吹く中、何とか切り抜け医療を継続したいと願うところであります。今後どのように社会が変化していくか不安もあり、まだ期待もありますが人口の増加を切に祈り願います。過疎化が進んでいく中、各分野での連携が必要となっております。オンライン診療の活用なども挙げられますが、皮膚科疾患としては、白癬などは検査が必要となり、褥瘡などでは処置が必要となります。アトピー性皮膚炎、ニキビなどの皮膚症状では活用されるかもしれませんが、高齢者に多い疾患については対面での診察が必要となります。システム運用までにも、診療時間の調整・機材の費用と使用方法・決済方法など問題が多く時間がかかり、難しい問題です。

そして、長かったコロナ生活の中で3月13日からマスク着用の方針が変わります。医療機関の受診時、高齢者施設の訪問、混雑時の電車やバス乗車時などではマスク着用を推奨されています。入院、死者の多いのが80代以上の高齢者です。高リスク者の方々を考えるとマスクが必要とも思いますが、人との距離の確保・手指衛生・換気を主とした感染対策は継続していきたいと思います。マスクを外した状態になり、感染拡大も懸念されますが、5月には≪5類≫へ引き下げられます。5類への移行後も、医療や高リスク者への対策は引き続き重要と考えます。

コロナの早い段階での終息、物価の安定を願っております。

「手 刀」

大船渡市国民健康保険越喜来診療所

所長 渡 邊 周 永

日本の国技である相撲、その起源は古事記や日本書紀にみることができる。平安時代には収穫を占う儀式として、また戦国時代には武術として行われ、江戸時代には職業としての相撲が興行されるようになり現代に至る。

幕内で勝負が決した時、勝った力士は手刀を切って行司から懸賞を受け取る。勝ち名乗りを受けた際に、刀を作るように右肘から指先まで真っ直ぐ伸ばし、胸あたりから右下に向けて斜めに払う様に動かす。それから懸賞を受け取るのだが、「心」という文字をなぞる様に手を動かすとする説があり、TVでは人気力士がそのように手刀を切っているように見える。一方、土俵に坐す勝利の神に感謝する礼であるとする説もある。その場合、小指側を下、親指側を上に向けて懸賞に対して左、右、真ん中と一度ずつ上から刀で切るような仕草をする。国造りに関わったとされる神産巢日神（かむむすひのかみ）、高御産巢日神（たかみむすひのかみ）、天之御中主神（あめのみなかぬしのかみ）の造化三神への拝礼だそう。

ところで、神道では拝礼する場合は先ず上位から行う。横並びのときは正中が最上位であり、次は向かって右、その次が左である。上下に並んだ場合はもちろん上が上位で下が下位である。相撲の手刀が三柱の神に対する礼であるとした場合、神道の作法によれば、正中に坐す天之御中主神から拝礼し次に右の高御産巢日神、そして左の神産巢日神の順ということになる。また、方位では北が南より上位であるため、東方力士と西方力士では拝礼の順が異なることになる。先ず正中に拝礼した後、次に上位の北側、東方力士は右に、西方力士は左に手刀を切り最後に残りの方にそれぞれ手刀を切って拝礼することになるだろう。東方と西方では力士の前に坐す神様の左右が入れ替わるわけだ。さらに稚児しくするのが、神道での一社由来の故実という考え方である。平たく言えば、作法はその神社で古来行われてきた慣習を尊重するということである。TVを見ていて力士の所作が気になったのだが、力士の作法が間違っていると言いたいのではない。結局、相撲の手刀については左から切ろうが正中から切ろうが、次が右だろうが左だろうが、相撲協会の決定が尊重されて良いだろう。

手刀の歴史は意外に浅く、昭和になってから元大関の名寄岩静男が広めたと言われている。戦前までは、土俵に坐す神は天神地祇12柱だったそう。勝負事とは余り関係なさそうな造化三神が勝利の神として坐すようになったのは戦後のことで、恐らく戦争の影響だろう。戦争は、その国の生活や文化、伝統までも変えてしまう。東欧の戦争ではまさに国の存亡に関わる状況になっている。社会生活を一変させたコロナウイルス感染症の終息も未だ見えてこない。戦争や感染症の流行が終息して、人混みの中を手刀を切って歩く日が来るのはいつだろう。

研修医日記

岩手県立大船渡病院 二年次研修医

鎌田大地

今回、2年間の研修医生活が終了するというタイミングで筆をとることになったので研修生活について振り返ってみようと思う。

ちょうど2年前の頃は医師とはなにか、社会人とはなにかをなにも知らずに医師として働くことができるという期待感でいっぱいだった。多少の不安もあったが、ずっと目指してきたものでそれほど気にはしていなかった。もちろん仕事としてもそうだが、自分にとっては初めての一人暮らしということでもあった。まわりは一人暮らしをすでに始めている仲間も多かったのでその憧れもあったのだろう。しかし、いざ実際に働き始めてみると自分の想像通りになることはほとんどなかった。まず、私の場合は医師として自分ができることがほとんどないことに気付かされた。医学部の6年間で勉強してきた知識は実際の臨床の場で使える場面はそれほど多くなく、そういうような場面があったとしても経験があるわけではないので「本当にこれでいいのか」という不安に襲われた。このような時は上級医に相談して経験を積んでいくことになるのだが、上級医の先生方はもちろん自分の仕事をこなす必要があるため、相談するタイミングなど社会人としての振る舞いを求められると感じた。最初は右も左もわからず上級医だけでなく、看護師さんをはじめとした他の医療スタッフにもたくさんお世話になった記憶がある。その中でも毎日を過ごす中で少しずつできることが増えていったが、同期の成長スピードには驚かされた。私は「習うより慣れろ」タイプの人間なので、ある程度学生時代から同級生に遅れをとってしまうことはたびたびあった。しかし、医師は命と向き合う仕事であり、自分の責任も今までよりも重くのしかかってくるため悠長なことも言ってもらえない。そこから必死に仕事を覚えていく毎日だったが、だんだんとできることも増えていき、一生勉強してかなければならない職業であることを痛感させられた。

そして、1年が経つと自分のことだけでなく後輩の研修医の手本にならなければならない。この時も自分が手本になれるのかという不安に襲われたが、後輩たちの成長は著しくさらにモチベーションを高めるきっかけになった。指導するような場面もあり、これまでは考えることがなかった視点もあったため自分の成長にもつながったと思う。また、3年目からの自分の専門を決めなければならない段階でもあったが、これにも悩まされた。研修医は1~2ヶ月単位で様々な科をまわるためその科をみるごとにいろいろな魅力を感じてしまうため、学生時代から持っていた印象が大きく変わることもあった。これは、自分だけでなく多くの研修医が悩みのタネだと思う。私は消化器内科として働くことを決めた。

この2年間の研修はこれからの医者人生の基礎となると思う。4月からは3年目となるが、消化器内科医としては1年目となるのでこの2年間で経験したことと似たような経験をすることもあると思う。その時はこの2年間の経験をもう一度思い出してその壁を乗り越え、さらに成長できるようにしたい。

気仙医師会学術講演会

◎ 開催日：令和5年1月18日（水）19時00分～

◎ 会場：大船渡プラザホテル（対面+WEB形式）

令和4年度糖尿病性腎症疾病管理強化対策事業

「糖尿病・CKD重症化予防の進歩と課題」

岩手医科大学医学部内科学講座腎・高血圧内科分野教授

岩手医科大学附属病院腎センター長 旭 浩一



本事業は、岩手県糖尿病性腎症重症化予防プログラムの実践事業の一環として岩手県医師会からの委託事業として開催したものであります。

糖尿病は適切な治療を受けずにいる場合、重症化するリスクが高いことから、未受診者や新たな受診者、診療中断者について、関係機関等からの受診勧奨や保健指導を行うことにより治療に結びつけること。また、糖尿病専門医以外の医療機関にも糖尿病患者の早期発見に協力いただき、重症化が懸念される患者については専門医に紹介するとともに、糖尿病性腎症等で通院する患者のうち重症化するリスクの高い患者に対して主治医の判断により保健指導対象者を選定し、関係機関等と連携し腎不全、人工透析への移行を防止することを目的としております。

講演会は、岩手県立大船渡病院副院長氏家隆先生が座長を務め、「糖尿病・CKD重症化予防の進歩と課題」と題して、岩手医科大学医学部内科学講座腎・高血圧内科分野教授兼岩手医科大学附属病院腎センター長である旭浩一先生よりご講演をいただきました。

旭先生からは、①DKDへの早期治療介入の重要性②DKD診療の潮流と新しいツール③診療の進歩に伴う課題④地域のCKD診療に関わる課題などについて詳しい説明がありました。参加者は、医師、薬剤師、行政担当職員等45人でした。



■ 令和4年度糖尿病腎症重症化予防対策連絡会

◎ 開催日時：令和5年2月1日（水）16：30～

◎ 会 場：大船渡市総合福祉センター

本事業は、大船渡保健所が主催となり令和3年度から開催しているもので、気仙医師会、気仙歯科医師会、気仙薬剤師会、大船渡市、陸前高田市、住田町で構成されており、昨年に引き続き開催されました。連絡会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い2月開催となりましたが、当日は、糖尿病協力医及び各構成機関の担当等19人が出席して開催されました。

星健悦大船渡保健所長のあいさつに続き、①気仙地域の糖尿病患者及び透析患者等の状況について②令和3年度連絡会意見交換要旨について保健所担当より説明があり、その後、意見交換が行われました。行政からは、糖尿病患者への受診干渉や治療中断者の人数、特定健康診査等における結果を踏まえた保健指導や相談等についての実態が報告されました。歯科医師会からは歯科受診の糖尿病患者への医科受診等に係る医科歯科連携についての対応と課題について、薬剤師会からは処方箋に基づく薬を渡す際の指導、相談における患者の様々な情報などについての意見や提言がありました。糖尿病協力医からは糖尿病の怖さと症状が出る前の医療機関への受診干渉について、糖尿病患者、歯周病患者の歯科受診、心疾患患者の病院紹介など受診干渉と医科歯科連携について、気仙地域において、糖尿病専門医がいないことでの課題とそれら解決に向けた新たな取り組みについて、日本糖尿病協会のカードシステム活用の勧めなど、多岐にわたり意見交換が行われました。

糖尿病患者を一人でも多く見つけ治療に繋げるため、講演会や連絡会の開催とともに、行政並びに医科歯科薬科等の連携協力の重要性が再確認された連絡会でありました。

線量測定商品のご案内

個人被ばく用
TLDバッジ



TLDバッジ

X線室用
ドーズコレクタ



放射線診療業務のためX線室などの管理区域に立ち入る診療従事者の＜安全・安心＞を確認するためにもお勧めしています。

【お問い合わせ】

いわて医師協同組合
〒020-0024 盛岡市菜園二丁目8番20号 岩手県医師会館内
担当：米沢・野村

TEL.019-626-3880
FAX.019-626-3883
フリーダイヤル.0120-054-222

放射線測定サービス(郵送方式)

産業医実地研修会

令和5年3月4日（土）14：00から太平洋セメント株式会社大船渡工場を会場に、気仙医師会主催の実地研修会が開催されました。同工場での実地研修会ははじめてで、平成23年3月11日の東日本大震災後12年を経て、県内被災地での復旧、復興事業がほぼ完了した中で、唯一復興事業が継続されている同工場周辺では今も防潮堤工事が継続して行われております。

《実地研修会スケジュール》

13：30～ 受付開始

14：00～ 開 会 （司会： 石倉 功一産業保健部長）

14：10～14：45 概要説明

太平洋セメント株式会社大船渡工場におけるセメント生産工程、安全衛生面等について

説明：太平洋セメント株式会社大船渡工場 総務課 今野章希氏 千葉賢一氏

15：00～15：40 現場見学

15：45～16：00 質疑応答



1 工場の概要

所在地：大船渡市赤崎町字跡浜21-6、敷地面積：約700千㎡、生産高：約200万トン/年、生産品：ポルトランドセメント、特殊セメント、混合セメント、キルン：1号（RSP式）2,800トン/日・5号（RSP式）4,900トン/日、従業員176名（2022年4月11日現在）、協力会社18社（約400名）。1936年5月に東北セメント(株)大船渡工場の建設工事が始まる。1937年12月、大船渡工場が操業開始（1号キルン運転開始）、1942年4月小野田セメント(株)と合併し、小野田セメント(株)大船渡工場となる。1994年10月秩父セメント(株)と合併し、秩父小野田(株)大船渡工場となる。1998年10月には、日本セメント(株)と合併し、太平洋セメント(株)大船渡工場となる。

2 セメント生産工程

- ①石灰石採掘工程：日頃市町及び住田町大平鉾山から採掘した石灰石を、開発鉄道の貨車に積み込み大船渡工場まで輸送する。
- ②原料・粉砕工程：主原料である石灰石、粘土、けい石、鉄原料を中心に、所要の構成成分になるように粉砕、乾燥、混合して成分が安定した粉体原料を作る。
- ③焼成工程：粉体原料が所定の温度になるまで加熱され、セメントとしての性能を発揮する化合物になるよう焼成される。1450℃に達して所定の化学反応を終えた後、エアークエンチングクーラーで一気に冷却して、クリンカと呼ばれる中間製品となる。

④仕上げ工程：中間製品となったクリンカに、セメントの硬化速度を調整する役割を果たす「石こう」を加え、細かい粉末になるまで粉砕してセメントが完成する。



3 工場内での健康管理について

- ・大船渡工場の安全組織体制：安全推進委員と労働支部からの委員とで構成する安全衛生推進委員会が月1回開催され、活動の円滑な推進と委員会での決定事項の周知徹底を図っている。
- ・工場での衛生活動の基本方針は、本社の衛生管理方針を基に作成しており、安全衛生推進委員会で承認を受け決定している。
- ・血圧測定、春の交通安全運動、破傷風予防接種、環境測定、健康診断など各月の行事予定を策定して進めている。
- ・長時間労働者への対応について、①医師による面接指導は月80時間以上時間外勤務をした方②2月間連続して45時間以上時間外勤務をした方③月45時間以上時間外勤務をした方で直接指導を希望した方④月45時間以上時間外勤務をした方で負担度の判定が高い方を対象としている。
- ・毎月、担当の方に時間外勤務者の方について照会、確認し、45時間以上の長時間労働のあった方を抽出、対象者には、長時間労働の疲労蓄積度の自己診断チェックリストに記入いただき、回収後判定し負担度が高いと判定された方、及び医師との面談を希望する方は、医師の面接指導を受けることとなる。
- ・医師及び衛生管理者からの指導内容を確認後、所属長が対策実施し、チェックリストを回覧、更にチェックリストは各所属長から労働組合に回覧され、情報の共有化を図る仕組みになっている。
- ・その他、長時間労働だけでなく体調や家族のこと、メンタルなことについて、医師の面接指導を希望する場合は対応している。



● 会員の入会・退会のお知らせ

入 会 会 員

ご歓迎いたします。

橋 本 政 明 先生

B会員 医療法人勝久会 介護老人保健施設 気仙苑

退 会 会 員

ご協力ありがとうございました。

安 藤 李 華 先生 C会員 岩手県立大船渡病院

遠 藤 泉 先生 C会員 ”

鎌 田 大 地 先生 C会員 ”

佐々木 拓 渡 先生 C会員 ”

竹 内 孝 太 先生 C会員 ”

百 川 齊 先生 C会員 ”

退会年月日 令和5年3月31日

●●● けせん医報へのご投稿募集 ●●●

本誌は、気仙医師会の広報誌です。年3回、4ヶ月ごとに発行しております。

会員の皆様や本誌をご覧になられた方からのご投稿をお待ちしております。

セミナーや勉強会、各種医療活動、思い出、エピソード、感想、トピックスなど、ご自身が掲載を望むものがありましたら、是非、ご投稿下さい。お待ちしております。

気仙医師会広報部 部長：吉澤 徹

事務局担当：寺澤、佐藤

TEL：0192-27-7729

FAX：0192-26-2429

E-mail：mail@kesen-med.ne.jp

編 集 後 記

新緑の季節を迎えています。私にとっては一番好きな季節であります。田舎に住んでいればこそ、尚更新緑が目映えてきます。活力がみなぎってきます。

さて、今回も日々の仕事が忙しいにも関わらず執筆を快諾していただいた4名の先生方には深く感謝申し上げます。5月から新型コロナウイルス感染症は5類に移行されることにより、今後我々の診療の仕方がどう変わるのか。オンライン診療がこの3年で大幅に普及してきたけれども、対面での診察がやはり欠かせない事例は沢山あること。相撲の話題になぞられた結びの文面はなるほどと感じられました。新緑のような若い先生の意気込みには、この私はまだまだ負けられないと力が湧いてきました。

新年度となり、先生方におかれましては益々多忙になられると思います、体調を崩されないように、どうかご自愛ください。 (M.C)

表紙のことば

記録的な早さで満開になった桜の下、市内の多くの小学校では入学式が行われました。

正装に身を包んだ新一年生が保護者に手を引かれ入学式に臨みました。

少子化が社会問題となっている最中、新入生たちにはこれからの社会を担う一員として大きく成長してもらいたいものです。

(写真提供：村田プリントサービス)